

あおば

幼保連携型認定こども園福光青葉幼稚園



夏の自然体験学習「わくわく体験①」

ねいの里で「アオダイショウ」の首かざり。にっこり笑顔？・・・でもドキドキ・・・。

興味深かったのは、各園がそれぞれ困難な時代の中で、形を変えてでも時代の要請に応え、その時代の人々と共に歩んできた点です。例えば、アームストロング師は第二次大戦中に帰国を拒み、日本に帰化する道を選びます。国の通達により園長を解任され、空襲により園舎が焼失しますが、彼女の志に賛同した多くの人々によって戦後、園舎が再建されました。

当時は他のキリスト教園にとっても困難な時代であり、独自の教育が認められず、毎朝「国ノオ役ニ立チマスル」と唱えるよう指導されたようです。

戦中・戦後にかけて、出征した男性に替わり女性が社会を支える必要から託児事業が求められました。詳細はわかりませんが、石動青葉幼稚園（現・石動青葉保育園）と北陸女学校第三幼稚園（現・坂ノ下保育園）は時代の要請に応え、幼稚園から保育園へと事業転換しています。その他の園も途中困難があったにせよ、戦後、キリスト教幼稚園として再出発しました。

同じキリスト教園として設立されたにも関わらず、ある園は「幼稚園」として残り、ある園は「保育園」として別々の道を歩むことになりました。当時の園長は、宣教師が建てた幼稚園を保育園にしてよいものかと頭を悩ませたことでしょう。しかし、どちらの道もその時代の人々に寄り添い、創立者の精神が引き継がれてきたことは間違いありません。

この話には続きがあります。幼稚園・保育園と別々に歩んだ各園ですが、今日ではすべての園が「認定こども園」になっているのです。現在、日本は少子化・人口減少に直面しています。また、世界はインターネットで便利になった反面、情報の氾濫・価値観の多様化により正解のわかりにくい時代を迎えています。この中、若い夫婦は自分たちの力で子育てをしていかなければなりません。今の時代に耳を傾けた結果、選ばれたのが「認定こども園」という形でした。

福光青葉幼稚園はまもなく百周年を迎えますが、子育てに励むご家庭のお役に立てるようこれからも励んでまいります。また、宣教師が種を蒔いてくれたように神さまの眼差しの中で子どもたちが健やかに育ち、それぞれの賜物を輝かせてくれることを願っています。

「時代と共に歩むキリスト教幼稚園」



学校法人福光キリスト教学園

理事長 前田真孝

日頃より福光青葉幼稚園を覚えてお祈りくださり感謝申し上げます。

当園は来年（2025年）に創立百周年を迎えようとしています。カナダ人婦人宣教師E・G・トゥイデーによってキリスト教保育の種が蒔かれ、それに賛同した歴代の保育者・家庭・地域の方々の協力によって歩みを重ね、守られ、今日に至っております。

先日、資料作成のために県内のキリスト教幼稚園の歴史を振り返る機会がありました。県内で最も古いのはアームストロング青葉幼稚園（富山市）です。

M・E・アームストロング婦人宣教師が1911年に県内最初の幼稚園を設立しました。その後、石動青葉幼稚園（1912年）、出町青葉幼稚園（1916年）が設立され、アームストロング師に続いて赴任したトゥイデー師によって、福光青葉幼稚園（1926年）、福野青葉幼稚園（1927年）が設立されています。

1913年には北陸女学校（現・北陸学院）が高岡市に北陸女学校第三幼稚園（現・坂ノ下保育園）を設立しています。



1942年（昭和17年）「音楽会」 戦時中は正面講壇に日の丸を掲げて。指揮者の台は現在も保育の場で活用中

特集 100年の歩みをめざして

昔から今、未来へ

学童疎開

太平洋戦争で本土空襲に備え、1944年（昭和19年）東京都内の国民学校の児童たちが富山への学童集団疎開を始めました。その人数は8月27日からの第1次と本土空襲が激しくなった1945年3月末からの第2次や再疎開を含め、計1万5千人以上に及びました。1次から再疎開まですべてを受け入れたのは富山県だけでした。

44年9月の第1次疎開の時の食事は、まだ豊かだったことが児童の日記に残されています。「なすのつけもの おいしいなすである ごはんもほんがりともりあがっている・・・」

一方第2次や再疎開の45年3月以降は「昼食は、胡瓜だけという事がありました・・・」とあります。

旧福光町に再疎開していた東京女子高等師範学校付属国民学校の児童の日記には、戦闘機の絵と一緒に「みんなごはんが少ない、身投をしたい、つらいといふ、ふだん思ってたことをぜんぶ葉書にかいてしまひました・・・。」

今でもウクライナやパレスチナのガザ地区で戦争は続いています。疎開のことや当時の子どもの思いを感じ、少しでも戦争と平和について考えたいものです。

「 出会いから考える 」



学校法人福光キリスト教学園

評議員 前田 啓子

コロナ禍、インターネットの恩恵で自宅と海外の日本語学習者とながり日本語レッスンを始めた。これまでに中国、オーストラリア、アメリカ、イスラエル、韓国、カナダ、イギリスほか、日本在住外国人や留学生とレッスンを行った。高校生から孫のいる高齢者まで、別の場所だが同じ時を生きている彼らの日常や個人を知ることができた。

ちょうど2年間の兵役義務中だったイスラエルの学習者は、軍基地から帰宅時間にあわせて日本語レッスンを予約した。7月で兵役終了、夏休暇はロシアの親戚へ遊びに行き、9月から大学生活が始まる。戦争という緊張状態を平和的な方法で解決する未来を望んでいるという彼女は、日本語が大好きだ。

また中国人医師は勤務する大学病院の昼休みにレッスンを予約し、中国からオーストラリアの病院に留学勤務中も学会で日本人医師と話したいからとレッスンを継続した。ほかには日本での留学準備やビジネスの準備、より良い転職のためにと日本語レッスンを予約する。

1日24時間が平等に付与され、日々の積み上げが人生になっていくが、よりよい人生をと平等に与えられた時間をその準備に充てる彼らを大いにリスペクトする。レッスンでの出会いは刺激的である。

さて、子どもたちはどのように積み重ねていくのか。田舎でのんびりと育っても、戦禍で逆境を克服して育っても、時間は平等な分配がされている。人間らしい生活が保障された社会に生きながらどんな判断をしていくのか楽しみである。



昭和初期の様子 このように円になって、ホールで礼拝や集会をしていました。それは今でも引き継がれています。

戦時下でのキリスト教保育

継続には多くの困難が伴いました

戦時中の日本におけるキリスト教保育は、国家の戦争遂行方針に従いながらも、独自の教育理念を維持しようとする努力が見られました。

1 宗教団体法と弾圧

1939年に施行された宗教団体法により、キリスト教を含む宗教団体は厳しい監視と制約を受けました。この法律は国家の統制下で宗教活動を置くことを目的としており、キリスト教保育施設もその影響を受けました。キリスト教保育施設は、国家の方針に従うことを強いられ、自由な宗教教育が制限されました。多くの施設が閉鎖されるか、活動を縮小せざるを得ませんでした。

2 保育士たちの努力と工夫

保育士たちは厳しい状況下でも子どもたちの安全と成長を守るために献身的に働きました。地域社会との連携を深め、疎開先での生活を支えました。物資が不足する中でも、保育士たちは創造的な保育活動を行い、子どもたちに豊かな経験を提供しました。手作りのおもちゃや教材を使い、子どもたちの興味を引き出す工夫がなされました。

3 物資の不足と生活環境

戦時中は食料や日用品が不足し、保育施設でも必要な物資を確保するのが困難でした。子どもたちの食事や衣類、教材などが不足し、保育士たちは工夫を凝らして日々の生活を支えました。また空襲の危険や避難生活の中で保育施設的环境も厳しいものでした。防空壕を利用したり、疎開先での生活を余儀なくされたりする中で、子どもたちの安全を確保するための努力が続けられました。

4 教育内容の制約

戦時中の国の教育方針に従い、キリスト教保育施設でも愛国心教育が強制されました。国民儀礼や軍事訓練が行われ、キリスト教の教えを伝えることが難しくなりました。クリスマスなどのキリスト教行事も制限されましたが、クリスマスの文言を使わずに行事を行うなどの工夫が見られました。

5 宣教師の帰国

戦時中、キリスト教系の学校や保育施設は国家主義に反するとして弾圧を受けました。また多くの外国人宣教師が帰国を余儀なくされました。これによりキリスト教系の保育施設や学校は運営が困難になりました。

(参考 : Copilot)

戦時中でも福光の地は「空襲・警戒警報は滅多に発令されず、平穏無事で※」、あったため、幼稚園は戦時中から戦後も、休園・廃園することなく保育を続けることができました。

太平洋戦争が始まり外国人宣教師でもあったトイデー先生は帰化申請をしましたが却下され、1941年(昭和16年)帰国を余儀なくされました。これについては、真宗が盛んな砺波地方で宗教的にも幼稚園経営においても地域と対立関係にあったことがあげられるのではないかとされています。また資産もトイデー先生はすべてのお金を砺波地方の幼稚園につきこんで、個人資産はもたなかったといわれています。

戦後1957年(昭和32年)教え子たちの願いが実を結び、トイデー先生は思い出の地、富山を再訪し旧交を温めることができました。

(参考 : ※富山写真館万華鏡)



戦時中の月刊絵本キダーブック/松村壽さんより（第1回卒園生）



E.G. Tweedie

- 1903年 トレー-宣教師（カナダメソジスト教会）来日
- 1926年 青葉幼稚園福光分園 開園
- 1941年 太平洋戦争開戦
帰化申請却下・・・カナダに帰国
- 1957年 再来日
- 1958年 母国カナダのトロントで

82歳の生涯を閉じる

生き物図鑑

自然とともに今を生きる子どもたち

今年も春になってから幼稚園の畑でいろんな生き物を見つけました。一番先に見つけたのは「カナヘビ」です。イモリに似た小さな生き物を、子ども達はあっという間に10匹近く捕獲。人懐っこくて優しい「彼」はすぐ人気者になりました。

早速飼育開始です。
「何を食べるのかな？」
「暗い所のほうが好きながいぜ？」
「喧嘩せんかな？共食いせんかな？」
図鑑を見ながら話し合いが始まります。ある朝、「彼」の産んだ卵から、続々と赤ちゃんが誕生。名前を付けて今も大事に飼育しています。



カナヘビとなかま

小さい組では「おたまじゃくし」「かぶとむしの幼虫」「いもむし」を大切に飼育観察し、互いにその様子を伝えあっています。

畑は夏野菜の収穫ばかりではなく、遊びの場としても大活躍です。



おいしいジュースはいかがですか

色鮮やかな花を植え、ジュース作りやレストランごっこで遊んでいます。時には隣家の木苺もいただくこともあります。

意識して目を向ければ、様々な自然が私たちの周囲にあります。園周辺の恵まれた自然の中で、子どもたちと共にいろいろな気付きを楽しみながら、丁寧に毎日を過ごしていきたいと思っています。

絵本「かわいそうな ぞう」に寄せて

認定こども園福光青葉幼稚園

園長 横山 一乃



この絵本に出会ったのは、幼稚園の先生になって二年目の夏でした。子どもたちに読み聞かせをしながら、感情を抑えきれず声を出して泣いてしまった事を思い出します。

絵本の内容は皆さまよくご存じのことと思いますが、上野動物園で実際にあった戦争中の出来事です。動物園に爆弾が落とされれば、動物たちが町に暴れ出し大変なことになることでしょう。そこで、動物たちに毒を飲ませて殺したという大変悲しいお話です。

幼稚園では毎年「かわいそうな ぞう」の絵本の読み聞かせをしています。子どもたちは食い入るようにじっくりかみしめています。そして、戦争は駄目だよ！動物たちがかわいそう！と言います。

戦後79年たった今でも世界では争いが絶えません。ウクライナ侵攻は続き、中東情勢も緊迫化し、国際社会で核抑止論は強まっているものの、現実には核兵器廃絶に逆行する動きが台頭しています。力による抑制ではなく、外交による和解の道が開かれることを切に願うところです。全ての人々が平等で尊重されることが平和の基盤であることを聖書は告げています。

「敵を愛し、自分を迫害する者のためにいのりなさい」

マタイ5：44

ひとり一人の違いを認め、理解しようと心を砕き、共に語り合う柔軟な姿勢の中から相互理解が生まれてくるのではないのでしょうか。幼児期はたくさんのぶつかり合いや、話し合い思い通りにならない経験を積み重ね、折り合いをつけ友だちと共同して遊ぶ喜びを味わってほしいと願っています。ぶつかり合いなくして他者の思いを想像することはできません。

また、異年齢集団の遊びを通して自分の役割を自覚し、自分のやるべきことを行いながら仲間と一緒に育ちあい問題を解決していく経験が大切と思うのです。

子どもたちには、おかれた場所にあって平和を創りだす人に成長して欲しいと願います。

認定こども園 福光青葉幼稚園開園 100周年

感謝記念礼拝

日時 2025年 11月 中旬～

場所 認定こども園福光青葉幼稚園にて



自然栽培米「なべちゃん農場」の渡辺吉一さんに教えてもらって、田植えを体験します

食農教育 「おおきなあれ!」プロジェクト開始

幼稚園と地域をつなぐ

福光青葉幼稚園では、子ども達に食の大切さや農業の意味、そして環境との調和を教える教育をめざし、これまでの食育教育から一歩進んで「食農教育」に取り組み始めました。「食農教育」が目指すのは、子ども達の中に「生きる力」を育むとともに、作物を育てる楽しさを知ってもらうことです。

体験を通して「意識」できる範囲が広がると、なんとも思わなかった「日々のごはん」や「通園までの景色」が違って見えることがあります。食べ物を育てる経験や、資源の循環に触れる機会が

少なくなっている現在だからこそ、農業体験を日常化し「食」を通して世界の見え方を獲得する楽しさを、多くの人と共有したいと思います。

野菜にも種の時があって、苗になって、そこからだんだん大きくなっていまのこの食卓に来ているんだよ、ということが体験的にわかるだけでも、食べ物とちょっと仲良くなれる気がしますね。食べ物がもっと身近なものとして感じられる。その感性があれば、必要な知識はあとから入ってくる。まずは原体験になる農業経験を一人でも多く、できればいろいろな年齢に応じて経験してほしいと思います。



「なべちゃん農場」渡辺さんに学ぶ農業と環境

北陸中日新聞 2024/5/20



・・・渡辺さんのやり方は、直径 15 ミリほどの小さな苗受けポットが連なった容器の一つ一つに土を詰め、その上に種もみを 4,5 粒入れて、さらに土をかぶせる。園児たちは、紙芝居も使った渡辺さんの説明を受けながら、土や種もみを手でつかんでじっくりと作業した。

種もみが入ったポット容器は、その日のうちに渡辺さんが同市吉見の苗床において苗を育て、今後葉が 5 枚出たら園児たちを招いて田植えをする計画。渡辺さんが「田んぼにはモリアオガエルやアカハライモリなどたくさんの生き物がいますよ」と呼びかけると園児たちは「早く田植えに行きたい」と応えていた。・・・

北陸中日新聞 2023/6/27



・・・植え方を教わった園児たちは、はだしになって田んぼへ。牛乳パックで作った苗箱に入れた苗をつまみ、一本ずつ泥土に植えこんでいった。(中略)

そんな園児たちを驚かせたのが、モリアオガエルの卵。通常、木の枝などで泡状の塊の中に卵を産むことがよく知られているが、その卵塊があぜにいくつも産み付けられている。なべちゃん農場ではよくある光景だが初めて見る姿に指で触って「プニプニで面白い」と歓声をあげた・・・

北陸中日新聞 2023/10/27



・・・渡辺さんから鎌の使い方や、稲株を束ねて結ぶやり方などを教えてもらったあと、田んぼに入り、手を添えてもらいながら稲をつかんで刈り取った。自然栽培の稲株は茎が太く固くなっており、鎌を入れると「バキバキッ」と音を立てるほど。田んぼの中には今も水生昆虫などがいて、園児たちを驚かせていた。(中略)

自然栽培ならではの体験を通して収穫した園児たちは稲を稲架かけ(はさかけ)して今年の田んぼの作業を終えた。・・・

種をまこう 種をつなごう

一緒に種をまき、苗を植え、育て、料理して食べる。そして種をつないでいく。季節や世代をこえて食べる循環を学んでいきます。

幼稚園の畑に夏野菜を植えて水やり、草取りをしたりします。粉の播種作業をし、苗に育ててもらいます。



手を動かそう やってみよう

絵本「大豆でみそづくり」や「米づくり」の絵本を読んで実際に体験をします。きな粉や豆腐づくりなど五感をフルに使う体験を通して理解が深まっています。

渡辺さん（吉見）方で刈り取った稲のはさがけ作業の手伝いを。蓑口さん（福野）方で有機大豆の味噌作りを毎年行っています。



つくり手から学ぼう、地域とかかわろう

地域の農家さんや食にまつわる生産者と一緒に手を動かして学んでいきます。地元で根ざし活動する人たちから学ぶことで地域にも関わっていきます。

大豆からの豆腐を知りたいと工場（むらた豆腐）見学や、養蜂の松本さんから「自然とみつばち」の話や蜂蜜しぼりを体験しました。



日常にとりこもう 自分のものにしよう

毎日、あひさつする。毎日、料理する。毎日、食べる。大切なのは日常。学んだことを日常に落とし込むことで、自分の身体に取り込んでいきます。

自分たちで収穫した夏野菜のカレーライスや梅ジュースを作ります。食べるまでの過程を知り、感謝の心知り、喜んで食べることを覚えます。



<富山県浄化槽協会会長賞>

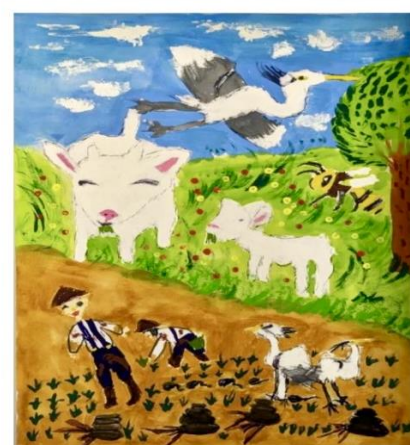
おおきなあれ！ ふくみつあおばの「食農リレー」

2歳組 花の種まき水やり クッキング見学

3歳組 花の種・苗植え水やり クッキング（ゼリー、葉物をちぎる）

4歳組 花・野菜の苗植え クッキング（野菜皮むき、切る） 味噌作り

5歳組 花・野菜の苗植え クッキング（野菜を切る、調理） 野菜の栄養調べ
地域農業の働きを知る



南砺市立福光東部小学校
1年 飯田 織絆さん

なべちゃん農場での農体験から食物連鎖を学び、絵画に表現されました。

「食からの学び」



2024年度青葉会
会長 海木 有紀

先日、PTA連合会の研修に参加させていただき、古田貴子氏を迎え「オーガニック給食がもたらす未来」について学びを頂きました。近年、オーガニックという言葉をよく耳にするようになりましたがな

んとなく良いものだろう”という認識でしかありませんでした。お話の中で、農薬や化学肥料を使用することで野菜自体の栄養価の減少や人体・環境へ悪影響を及ぼすものだと知り、改めて幼少期の食事はとても重要であると気づかされました。

当園では「有機給食」の取り組みの一環として、お米作り・はちみつ絞り・梅ジュース作り・味噌づくりの体験が出来、自然の中でどのように食物ができるのか我が子も学びを得ております。また、ブルーベリー狩りやりんご狩り、カラフルトマト、いわたの掴み取りなど季節を感じな

がら自然の恵みに祈り、頂いております。このような貴重な体験ができるのも、地域の方々の苦勞や頑張り、幼稚園の先生方、親御さんのお力添えがあってこそだと感謝しております。また、現代では加工食品や冷凍食品、精製された調味料等も容易に手に入りましたが、ミネラル不足も懸念されております。

この南砺地域の“よいとこ”を感じ、いただきながら、子どもと共に“食育”について考えていきたいと思っております。

幼稚園ギャラリー 2024



4月/入園礼拝 なかよししましょうね



5月/高く泳げ! こいのぼり



5月/親子遠足 (富山市ファミリーパーク)



6月/花の日礼拝・訪問



5月/ヤギと仲よし (出町青葉と交流)



7月/暑い日は水遊び



8月/ジップラインに挑戦 (わくわく体験)



8月/岩魚つかみ



8月/盆おどりのついで

職員紹介

012 歳組チーム

徳永 吉岡 河合 吉田



345 歳組チーム

林 大西 村上



私達は「チーム保育」を行っています。

職員が保育について日々話し合い、協力しあって保育に取り組んでいます。

毎日を大切に、一人ひとりと丁寧に向き合っていきたいと考えています。

佐々木 滝下



チャップリン/吉川 園長/横山

鍛冶 山下 山中



今年は0歳から2歳児まで16名で仲良く過ごしています。

うさぎ組・きりん組と保育室に名前をつけ、いったり来たりして、好きな遊びやお友達を見つけ、じっくりと遊んでいます。

お散歩も大好きで、田んぼのおたまじゃくしや小さな蟻を見つけ じっ…と観察したり、先生と一緒に葉っぱやお花のおまごごとを楽しんでいます。



345歳組は異年齢同士の交流の夏をすごしました。

年齢に関係なく、水鉄砲で思い切り水の掛け合いっこをして、楽しい笑い声がたくさん聞こえました。

また、一緒に給食を食べることで大きいお友だちの良い所をお手本にしたり、小さいお友だちを気にかけて手伝ってあげたりとお互いの距離が縮まる豊かな経験となりました。

◎ 2023 年度 認定こども園福光青葉幼稚園 ご支援報告

感謝をもってご報告いたします。いつも幼稚園の働きを覚え、お祈りの内にお支え下さり心より感謝申し上げます。

様々な困難はありますが、子どもたちの明るい笑顔に励まされ頑張っております。

どうぞ引き続きお支え下さいますようお願い申し上げます

● 2023 年度 寄付してくださった方々 (順不同 敬称略 2022.4~2023.3)

芝 恭子 木元春生 高橋八重子 金子利朗 得能昭夫 落合美代 横浜磯子教会 中村清
青葉会 卒園生保護者 匿名 1 名

● 引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

(郵便口座番号 学校法人福光キリスト教学園 00720-4-93738)

◎ 2025 年度 認定こども園福光青葉幼稚園 園児募集要項



★保護者の方の就労にかかわらず、入園できます。

※一時預り保育もご利用ください。(里帰り出産などご相談ください)

※教育活動の一環として、英語で遊ぼう、体育教室、リトミックを行っています。

幼稚園 HP



0 歳児 2 名 / 1 歳児 6 名 / 2 歳児 4 名 / 3 歳児 5 名 / 4・5 歳児若干名

ご家庭とお子様の状況を配慮した丁寧な保育を行います。お子様、お孫様をぜひご紹介ください。また、園見学はいつでもいたしておりますので、お気軽にお問い合わせください。

幼保連携型認定こども園福光青葉幼稚園

